

## 2016.09.26：平成27年度 決算等審査特別委員会(第2分科会) 本文

○菅原正和委員 本日より決算等審査特別委員会が分科会形式で開催されます。第2分科会は本日から始まり、はえあるトップバッターを務めさせていただきます。私、自由民主党菅原正和、光栄に感じておりますので、よろしく願い申し上げます。

私からは、第3款市民費第1項市民費第1目市民総務費中、東西線フル活用プラン推進の2億2237万8000円に関して、まちづくり人材育成事業についてお伺いしたいと思います。

地下鉄東西線開業に向け、交通局、市民局、都市整備局が横断的にかかわりを持つWEプロジェクト実行委員会を立ち上げました。東西線フル活用プラン推進のうち、WEプロジェクト実行委員会の決算額は、WEプロジェクト実行委員会負担金7878万8000円、交通局負担金5413万4000円、協賛金1576万6000円を含め、1億4877万7000円であったとお聞きしましたが、確認のため決算額をお示してください。

○市民プロジェクト推進担当課長 平成27年度のWEプロジェクト実行委員会の決算額は1億4870万7000円で、このうち市民局の負担金は7878万8000円となっております。

○菅原正和委員 平成26年、WEプロジェクト実行委員会から電通が委託を受け、超市民参加型の地下鉄東西線プロモーション、WEプロジェクトが実施されました。志伯健太郎氏、古田秘馬氏、戸田宏一郎氏、小山佳奈氏、齋藤精一氏、西田司氏という6名の超がつくほどの豪華なクリエイターがプロモーションを仕掛けました。

プロモーションの一つとして、市民参加の新たな形として、WE SCHOOLという名称の人材育成を行いました。事業の目的と内容につきましては、平成27年10月9日の決算等審査特別委員会で私が質問し、市民局の答弁は、WEプロジェクトとは市民参加型のプロジェクトであり、市民ベースで東西線開業に向けた具体のプロジェクトを立ち上げていくことができる人材の育成を目的に実施したとの答弁がございました。内容としては、沿線の魅力や課題を見つけ出し、市民のアイデアを発掘し、地域を盛り上げていくことができる人材育成を行う市民プロデューサーコースと、効果的にプロジェクトを市民の皆様へ発信できるスキルを身につける市民メディア隊養成講座の2講座を開設しました。定員と応募状況に関しては、市民プロデューサーコース、定員30名のところ58名応募、市民メディア隊養成講座、定員30名のところ34名の応募があったとの答弁をいただきました。

WE SCHOOL 1期生は、卒業後、WE SCHOOLで得たノウハウを生かしながら、開業イベントのコンテンツ企画、東西線を中心とした仙台のまちを盛り上げる企画を実現するために、当初予定した講座回数で終了するのではなく、企画されたものをさらにフォローするフォローアップ講座、アフターWE SCHOOLが実施されたとお聞きしましたが、当

初からフォローアップ講座は考えられていたものなのか。それとも、講座が進み、受講生の企画を無にできないということで考えられたものなのか、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長　フォローアップ講座として実施したアフターWE SCHOOLにつきましては、平成27年度当初から事業計画に位置づけ、平成26年度の卒業生の企画実現をフォローする目的で実施した事業でございます。

○菅原正和委員　それでは、アフターWE SCHOOLではどれだけの企画が立ち上がり、実際どれだけの企画が実現したのかお示してください。さらに、企画名や企画内容等がわかれば、内容等もお示してください。また、市民局としてこのアフターSCHOOLの課題と認識をお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長　アフターWE SCHOOLにおいては、卒業生を中心とするまちづくりプロジェクトが13件企画され、そのうちの12件が実現しております。主な企画といたしましては、仙台を舞台としたテレビドラマを制作する仙台ドラマプロジェクト、居酒屋など転勤族の基地としてさまざまな活動を行う、ええじゃないか！転勤族、全国の御当地キャラクターが東西線の見どころを紹介するWEキャラパ、地下鉄型の行灯制作ワークショップ、仙台えんがわプロジェクトin卸町、各駅周辺で体験講座を実施する伊達メガネなどがございました。

WE SCHOOL卒業生から数多くのプロジェクトが生まれ、そのほとんどが実現していること。また、それぞれの活動にかかわった皆さんが、現在もまちの魅力発信などに力を発揮していることなどから、実践形のまちづくり人材育成事業として、大きな成果を上げたと言えるのではないかと考えております。

○菅原正和委員　第1回目のWE SCHOOLの大きな成果として、WE SCHOOL卒業生が実際講師になり、WE SCHOOLスピノフ企画が実施されましたが、その決算額はどのくらいだったのか。どんな講座があり、受講生はどのくらいだったのか。第1回目は受講料を徴収しましたが、スピノフ企画はどうだったのかお聞きします。さらに、スピノフ企画を開催したことで、どのような認識と課題があったかお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長　平成27年度スピノフ企画につきましては、ミニパンフ制作講座、映像制作講座、テレビドラマ制作講座の3講座がそれぞれ5回連続の講座として開設され、決算額は約100万円、受講料は各講座3000円、受講生は3講座の合計で30名となっております。

卒業生が講師となって市民向けの講座を実施したことに関しまして、特段の課題はなく、卒業生の活躍の機会がふえたと同時に、WE SCHOOLで学んだ知識が市民に広められたことは、大変有意義だったと考えております。

○菅原正和委員 平成26年度から始まりましたWE SCHOOL、平成28年度も人材育成事業ということで予算が執行されております。平成27年度の決算に当たり、WE SCHOOLを実施して見えてきた課題、認識があるかと思いますが、市民局の御見解をお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 平成26年度のWE SCHOOLにおいては、市民プロデューサー養成講座と市民メディア隊養成講座を実施したところですが、受講生はいわゆるプロの方から、初めて経験される方までさまざま、その知識や経験、講座に期待する内容等に幅があったこと。また、プロジェクト実現までに当初の想定以上に時間を要したことなど、検討すべき点が浮き彫りになったところがございます。

その一方で、全国各地の第一線で活躍されている地域プロデューサーなどを講師として迎え、豊富な事例を交えて学ぶことは、受講生にとってプロジェクトを企画し、実践していく上でプラスの刺激となったものと考えており、WE SCHOOLの手法が、まちの魅力をみずから発信できる人材を育成していく上で有効であると認識したところがございます。

○菅原正和委員 私としては、WE SCHOOLのWEという言葉がある以上、WEプロジェクトの目的でもある地下鉄東西線との関連は強いものと感じております。6月の第2回定例会、一般質問でもお伺いいたしましたが、今回の人材育成事業がどのような目的で始められたのか、地下鉄東西線とどうかかわっていくのかをお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 今年度のまちづくり人材育成事業は、これまでのWE SCHOOLを発展的に継承した事業で、にぎわいを創出するまちづくりのノウハウを習得し、地域活性化イベントなどをみずから企画し、実践できる人材の育成を目的といたしております。

東西線沿線のにぎわいづくりやまちづくりは、開業後も引き続き重要な課題でありますことから、スクールや交流会、あるいはフィールドワークの場所等として、東西線沿線で開催することなどを通じまして、沿線地域への関心を高める工夫を行っているところでございます。

○菅原正和委員 今のお話を踏まえた上で、人材育成事業を市民局は継続事業としておりますが、今までのWE SCHOOLの事業主体は、委託業者の電通であったと思いますが、今年度はどこが事業主体なのか、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 本年度のまちづくり人材育成事業につきましては、仙台市市民局が実施主体となり、株式会社都市設計に業務を委託して実施しております。

○菅原正和委員 人材育成事業を進めるに当たりまして、仙台市が事業主体ならば、市民局が企画し事業を進めるべきと考えますが、再度委託事業とした理由について、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 本年度のまちづくり人材育成事業の実施に当たりましては、まちづくりや人材育成に関する効果的なカリキュラムの設定や、講座にふさわしい講師の選定などノウハウが必要となりますことから、同様の事業について実績のある事業者を選び、委託することといたしたところでございます。

○菅原正和委員 それでは、委託業者の募集はどのように行ったのか、また、募集してどれだけの応募があったのか、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 事業者の募集に当たりましては、プロポーザル方式によることとし、10社を指名して企画提案を求めたところでございます。応募がありましたのは、1社でございます。

○菅原正和委員 今の御答弁では、1社しか応募がなかったということですが、その理由はどう考えているのでしょうか。

○市民プロジェクト推進担当課長 応募を辞退された10社のうちの9社につきましては、辞退される旨の届け出をいただいておりますが、辞退理由を伺うことにはなっておらないため、内容については把握しておりません。

○菅原正和委員 私が聞いたところによりますと、受託者は昨年もWEプロジェクトに関係し、昨年実施したWE SCHOOLの問題と課題認識を事前に把握していたようですが、予算規模1500万円ということで、前年の事業から比較すると大幅に予算規模が縮小していると思いますが、他社の応募がなかったのは、余りにも予算規模が少なかったからではないかというのも一つの原因ではないでしょうか。その点、どうだったのかということをお伺いすると同時に、この予算でこのWE SCHOOLを運営するに当たり、どのような企画が出されたのか、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 事業の内容が異なるために、単純な比較ができませんが、予算規模は昨年と大きくは変わっておりませんので、適正なものと認識しております。

また、提案のありました企画案につきましては、メディアクラス、スポーツ・アンド・エンターテイメントイベントクラス、エリア・イノベーションクラス、サードプレイスクラスの四つのクラスを設けるほか、将来に向け自立した活動ができるよう、資金調達にも重きを置いたプログラム構成とした内容となっております。

なお、このうちスポーツエンターテイメントイベントクラスにつきましては、スポーツイベントクラスとして、またエリア・イノベーションクラスにつきましては、地元イノベーションクラスとして、サードプレイスクラスにつきましては、SENDAIサードプレイスクラスとして現在実施しているところでございます。

○菅原正和委員　今お聞きした中で、SENDAI サードプレイスクラスについては、都市整備局が行っているせんだいリノベーションまちづくりと関係が深いと思いますが、受託業者自体がせんだいリノベーションまちづくりに密接にかかわりを持っているという認識を持っていますが、その理由でWE SCHOOLのクラスにリノベーションクラスを入れ、都市整備局と連携を図っているように感じますが、御所見を伺います。

○市民プロジェクト推進担当課長　SENDAI サードプレイスクラスは、自宅と職場に次ぐ第3の居場所、サードプレイスをまちの中につくり出すことのできる人材を育成することを目的としております。一方、せんだいリノベーションまちづくりは、遊休不動産や公共空間を活用し、まちの再生や活性化を図るために事業として実践するものと確認しております。

サードプレイスクラスの運営に当たりましては、実際の物件をケーススタディとして、その活用方法を考えることも予定しており、クラスで学んだことでリノベーションまちづくりなどの実践的なまちづくり活動にかかわる人材となるよう、効果的な連携を図ってまいりたいと考えております。

○菅原正和委員　まちづくり人材育成には一定の時間や経験が必要だと考えますが、今年度のスクールは3コースとも9月から12月までの短期間で全8回の講座になっております。この内容でどのように人材を育成していくのか、また第1期開催のWE SCHOOLでは、アフターWE SCHOOLを実施しました。この流れを考えると、8回の講座でそれだけの人材を育てることができるのか、正直なところ不安が残ります。今回の講座に関して、市民局の見解をお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長　御指摘のとおり、まちづくり人材育成には多くの時間がかかるものと認識しております。今年度におきましては、短期集中型のスケジュールの中で、モチベーションを高く保ちながら、具体的な事例をもとにグループワークや事業計画の立案、そしてプレゼンテーションを経験いただく内容といたしております。こういった一連の作業を通じ、まちづくり活動におけるプロセスを体験することができることから、実践的な知識の習得につながるものと考えているところでございます。

○菅原正和委員　前回も今年度もWE SCHOOLが委託事業ということで講座が進められています。私を感じるのには、当局が委託業者に丸投げをしているような印象があります。講座を通じて、市民局のかかわりが余り見えてきません。確かに成果は上がっています。これからの行政スタイルは、主力になるのではなく、コーディネート力にあると感じております。WE SCHOOLは、ここで学んだ人材がまちづくりの実践活動を行うことが大きな特徴だと思っております。現に第1期生から数多くのまちづくりのプロジェクトが生まれております。このようなプロジェクトが継続、発展していくためにも、卒業生の活動のフォローアップが重要なことではないかと考えております。今後、受講生をまちづくり人材として生かせるようにするため、行政としてどのようにコーディネートしていくのか見解をお伺いします。

○市民局長 今年度のWE SCHOOLでございますが、最終回の12月の講座でプロジェクトを発表して卒業ということになってございます。卒業後もプロジェクト実現に向けた実質的な活動において、その活動の周知や相談対応など継続してフォローアップしていきますほか、まちづくり実践者などとのネットワークづくりができますように、既卒のスクール生を含めた交流会も開催する予定でございます。

WE SCHOOLには、地域の将来を担う人材を育成するという重要な役割があるものと考えてございまして、本市といたしましても事業運営にかかわることにより、人材育成のノウハウ蓄積と人材ネットワークの構築、また活動に必要な情報提供や、人と人のマッチングなどのコーディネートができるよう努めてまいりたいと存じます。

○菅原正和委員 次に、WE TUBEについて数点お伺いいたします。

第1回定例会予算等審査特別委員会での答弁では、WE SCHOOLとともに、WEプロジェクトの目玉として登場したWE TUBE、13台製作し、地下鉄東西線駅が13の駅であることから、各駅に設置の提案がなされましたが、実際は6台のみの製作にとどまり、WEプロジェクト実行委員会において、設置場所を駅に限らずさまざまな場所に設置し、多くの人々に触れて、見ていただける場所に設置するとの決定がなされ、東西線沿線の商業施設や大学、あるいは仙台市内の各地で開催するイベントの場に設置をするという答弁をいただいております。今までWE TUBEはどんな場所に設置をし、どんな効果があったのかお伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 WE TUBEにつきましては、さまざまな市民活動や地域情報を発信するメディアとして整備いたしました。設置場所につきましては、設置当初から若干の移動がございまして、現在は仙台駅2階の仙台市観光情報センター、市役所本庁舎1階、国際センター駅2階青葉の風テラス、仙台駅前の商業施設EBeaNS、仙台市市民活動サポートセンター、そして卸町駅近くの起業家育成支援施設INTILAQ、この6カ所に設置しているところです。

東西線の紹介やWE SCHOOLメディア隊が作成したコンテンツ、テレビCM等の情報発信を行ったほか、内蔵カメラとスタンプ機能を利用して自由に投稿していただくWEカメラというイベントを行いまして、こちらには1,000名以上の市民に御利用いただきました。最新の情報媒体を活用した新しい時代のユニークな広報プロモーションとして一定の効果があったものと考えております。

○菅原正和委員 私としては、当初目的の地下鉄駅に設置してこそ、現在設置してある地域情報ボードと連動し、初めてデジタルサイネージの役割が果たせると思いますし、このデジタルサイネージは、タッチしなければ、その情報が見られません。1人の人が使用している場合、ほかの人は情報を得ることができません。私も市役所1階に設置してあるWE TUBEを触ってみますが、コンテンツを見るだけで結構な時間がかかります。足をとめて一緒に見る

人がいないのが現実でございます。それならば、一定期間、現在ある6台を集中して、駅に一堂に並べるとか、6台を一つの駅構内に分散して活用したほうが、市民の目に触れる機会が多いと思います。設置に関して、従来どおりの考えなのか、新たな設置方法を考えていくのか、お伺いいたします。

○市民プロジェクト推進担当課長 WE TUBEの設置につきましては、先ほども御紹介いたしました。が、今月13日に仙台駅構内の仙台市観光情報センターに1台を移設しており、今後は仙台を訪れる多くの観光客の皆様にも広く東西線の魅力を伝えることができるのではないかと考えております。

今後により多くの皆様に御利用いただけるよう、コンテンツの充実に努めるとともに、設置場所につきましても、適宜見直しを行いながら、効果的に運用を図ってまいりたいと考えております。

○菅原正和委員 このデジタルサイネージのWE TUBE製作に当たりまして、これまでに平成26年度は1300万円、平成27年度は700万円の見込みという答弁をいただいておりますが、平成27年度決算額はどれだけかかったのか。また、開発時のプログラムが特殊だったことから、情報の更新、新たなコンテンツのシステム追加は、製作側に依頼し、スムーズにできなかったということですが、現在はスムーズに修正できるシステムになっているのか、お伺いいたします。

また、スムーズに修正できるシステムになっているとすれば、多くの市民にこのデジタルサイネージを、地域の新たな情報発信のツールとして活用してもらうことで、高額な投資をしたデジタルサイネージが生かされると思いますが、当局の見解をお聞きして私の質問を終わらせていただきます。

○市民プロジェクト推進担当課長 平成27年度の決算額につきましては、コンテンツの制作やプログラム開発、本体の製作、運用経費を含めまして884万円となっております。

情報の更新につきましては、パソコンに関する一定の知識があれば、コンテンツの入れかえや更新が比較的簡単に行えるよう、修正を行ったところでございます。

また、トップ画面に地下鉄東西線沿線インフォメーションと内容がわかるタイトルをつけ、沿線施設をスライド写真で紹介するなど、より広く市民や観光客に御利用いただけるよう工夫したところでございます。

今後もWE SCHOOLで制作した動画のほか、市民から提供のあった東西線沿線の魅力やまちづくり情報を伝えるコンテンツの充実に努め、活用を図ってまいりたいと存じます。